

# 化粧品分野に本格進出

## レチノールC/D包接原料品揃え ルなど

### シクロケム

シクロケムが、化粧品分野に本格進出する。r-C/D(シクロケムキストリン)でレチノール(レチノール)を同用途向けに安定化する技術を確認、食品用で先行したコエンザイムQ10(CoQ10)も、化粧品用の包接品を販売する。両製品については原料としての販売と同時に、クリーム製剤を子会社・コサナから来年二月をめどに発売し、オリジナル化粧品としての事業展開を進めていく。このほか紫外線や酸化に弱いリノール酸などをC/D化で安定化することにもめどをつけており、これら植物性の抗酸化物質を化粧品製剤原料として市場開拓、同分野で年間一億一三億円を目指した事業展開を図っていく。

### 子会社で配合品の展開も

シクロケムは、独ワッカードのファインケミカル部門の総代理店で各種シクロケムキストリン(別名・サイクロケムキストリン)の研究開発会社。かねて茶カテキンの苦味のマスキングやサブリメント用にコエンザイムQ10の包接品などを、米ワッカードケミカルのアイオワ州工場から輸入、食品分野で着実な成果をあげてきた。

ルはかねて真皮コラーゲン生成に働きかける美肌効果、ヒアルロン酸合成の促進といった効果が知られており、マイクロカプセルで安定化し使われていたが、r-C/Dによる包接では、化粧品クリーム中で一カ月半に及ぶ貯蔵(二十五度C・日光

照射)でも、ほぼ変わらない安定性を示しているという。

また同C/DによるコエンザイムQ10の包接は、サブメントですでに実用化されているものの、現在、0.03%に決めた。高配合比率で配合された化粧品への配合比率も、活性の高いC/D包接品を用いることで実質的な高い効果を期待することができるとしている。

加えて同社では、細胞膜の構成成分であり健康な肌を保つうえで、重要な機能を果たすリノール酸についても、α-C/Dで安定化するとの知見を明らかにしており、これも化粧品原料として輸入展開していく。

さらにシクロケムでは、今年発足させたC/D応用の健康食品・サブメントなどの販売子会社・コサナにおいて、これらを配合したクリーム製剤などをオリジナル化粧品として販売していく方針。来年二月以降に相次ぎ投入していく。同社では今後、化粧品原料輸入とオリジナルブランド化粧品の両面作戦で、C/Dの応用領域開拓を進めていく。

日本市場では当初から化粧品分野も開拓の対象になっていったが、今回改めて品揃えを強化し、営業展開に本腰を入れていくことにした。レチノール